

2020年12月20日  
宮崎中部教会クリスマス礼拝  
牧師 乾元美

イザヤ書7:14

ルカによる福音書2:1~7

「飼い葉桶の救い主」

<クリスマスのできごと>

みなさん、クリスマスおめでとうございます。今日はクリスマスの礼拝です。

クリスマスは、神の御子イエスさまが、わたしたちの救い主となるために、この世にお生まれになったこと。わたしたちに救いが訪れたこと。この神さまの出来事を感謝し、お祝いする日です。

世の中は、自粛の呼びかけの中でも、確かにお祝いムードになっています。でも、クリスマスを誰のためにお祝いするのか。どうして喜びをみんなで分かち合うのか。その本当の意味を知らない人は、とても多いかも知れません。

クリスマスは、イエスさまの誕生をお祝いする、と言いますが、イエスさまに「生まれて来て良かったね、おめでとう」と言う日ではありません。

そうではなく、イエスさまがわたしたちのために生まれてきて下さったのです。イエスさまを与えられたわたしたちに、「おめでとう」と言うのです。あなたの救い主が来て下さいました、おめでとう。あなたを救うための出来事が、約2000年前に起こりました、おめでとう。そして、今ここにあなたに、その救いが及んでいます、おめでとう。

わたしたちは、クリスマスの本当の喜びの意味を知らなければなりません。そして、与えられた救いの出来事を、神さまから与えられたイエスさまというプレゼントを、心から感謝して受け取りたいのです。今日、わたしたちはクリスマスの本当の喜びを、ご一緒に分かち合いたいと願います。

<イエスさまの誕生>

さて、今日の聖書箇所は、まずイエスさまがお生まれになった時の状況が描かれています。

1節には、「そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。」とあります。

イエスさまがお生まれになった約2000年前、ユダヤ人が住む地域一帯は、ヘロデ王が治めるユダヤ王国でした。しかし、ヘロデ王はローマ帝国の後ろ盾に支えられており、事実上はローマ帝国の支配下にあったのです。

当時、ローマ帝国は大変広大な地域を、絶大な力で治めていました。そのためにローマが支配する地域には平和がもたらされ、時の皇帝アウグストゥスは「全世界の救い主」とまで

人々に呼ばれていたようです。

皇帝は、人々の頂点に君臨する、世の支配者、絶大な権力と富の持ち主でありました。この皇帝の支配のもとで、聖霊によってイエスさまを身籠ったマリアと、その夫ヨセフは生きていたのです。

さて、この皇帝が、住民登録の勅令を出しました。それは、正確な人口調査を行い、それぞれの地域の勢力を把握し、また適正な税金を納めさせるためです。それで聖書は、「人々は皆、登録のためにおのおの自分の町へ旅立った」と記しています。

ヨセフはガリラヤのナザレという町に住んでいました。しかし、血筋としてはダビデ王の子孫にあたるので、ダビデの町のユダヤのベツレヘムまで登録をしに行かなければなりません。そこで、ヨセフは身重のマリアを連れて、ベツレヘムへ行ったのです。

世の支配者である皇帝のもとで、その苦しみや弱さを知られることもなく、ただ命令に従うしかない、小さく貧しい人々。それが、イエスさまの両親の姿でした。

#### <家畜小屋>

さて、臨月のマリアにとって、この時期の旅はとても辛かったでしょうし、ヨセフもとても気を遣ったに違いありません。そしていよいよ、マリアがイエスさまを産む時がきました。しかし、ベツレヘムの町には大勢の人々が住民登録のためにごった返しています。宿もすでにいっぱいです。

本当なら、赤ちゃんが生まれる時には、清潔なところを用意して、暖かくして、人目につかない、お母さんが安心して産むことができる場所を整えるでしょう。しかし、もう産まれそうになっているマリアのために、部屋を譲ってくれる人も、宿の一角を貸してくれる人も、人目を避けられる場所を用意してくれる人もいませんでした。

それで結局、マリアは家畜小屋でイエスさまを産むことになったのです。6 節以下には、「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」とあります。イエスさまが「飼い葉桶に寝かされた」とあることから、そこが家畜小屋だったと分かります。そこは、人が寝泊まりするようなどころではありません。ましてや、お母さんが赤ちゃんを産むような環境ではありません。しかしそのようなところで、イエスさまはお生まれになりました。そして、布にくるまれて、飼い葉桶の中に寝かされたのです。

これが、世界のすべての人の救い主、神の御子イエスさまの、ご降誕の様子なのです。

神さまが、来たるべき時に救い主を遣わして下さることは、今日読まれた旧約聖書のイザヤ書にもあったように、遠い昔から預言者を通して語られ、イスラエルの民に約束されていたことでした。神さまははっきりと、人間を救うためのご計画を示しておられました。

すべての人を罪から救うために。神さまに背き、離れ、罪と死に捕らわれたすべての人々を救い出すために。すべての人が、神さまに立ち帰り、神さまと共に生きる者となるために。神さまは救い主を世に遣わすと語られました。

そして2000年前、イエスさまが誕生し、その神さまの約束が実現したのです。人々に救いを与えるために、神さまは御自分の独り子を、わたしたち人間の世に遣わして下さったのです。

神の御子イエスさまの誕生は、神さまのわたしたちに対する愛の表れです。わたしたちの救いの実現です。わたしたちのためになされた、神さまの偉大な奇跡の御業です。

ところが人々は、この世は、イエスさまを、喜んで受け入れませんでした。まったく神さまの御業に無関心でした。神の御子の誕生を、心にも留めませんでした。ごく普通の、弱い、困っている隣人に対しての心遣いや、優しささえ、示されることはありませんでした。

幼子イエスさまが、貧しい、みすぼらしい飼い葉桶に寝かされた。これはまさに神さまに無関心な、そして隣人に無関心な、この世の闇を、人々の罪の心を、映し出しているのです。

### <幼子イエスさま>

しかし、神の御子イエスさまは、確かにそのようにして、この世に来て下さいました。

人々がちゃんと迎えないから、用意がされていないから、心が冷たいからといって、神さまはこのご計画を取りやめられることはありません。

しかもイエスさまは、人の世話にならなければ生きられないような、無防備な、無抵抗な、もっとも弱い赤ん坊の姿をとって、この世の最も貧しいところに、人々に忘れ去られ、無視されているようなところに、ご自分を差し出されたのです。

人々の救いのためになら、そのようなところでも、喜んで来て下さる救い主なのです。

人は、救い主に会いたいと願うなら。救いを求めるなら。どんなに貧しいところでも、どんなに惨めなところでも、どんなに罪の只中にいようと、救い主イエスさまに出会うことが出来るのです。

イエスさまは、「こんなところなんかに、神がおられるはずがない」と思われるような場所にまでいらっしゃいました。そして、わたしたちがイエスさまと出会うことを、イエスさまを受け入れることを、その身を差し出して、待って下さっているのです。

イエスさまは、神の御子で、救い主だからと言って、立派な王宮や、神殿の奥でお生まれになったのではありません。もしそうだとしたら、この方にお会いするには、それなりの地位が必要で、お会いする予約を取って、それから美しく着飾って、いくつもの門や扉をくぐって、奥の間の、高いところに置かれている、黄金のゆりかごにやっと辿りついて、うやうやしく挨拶しなければならいでしょう。

でも、イエスさまは、そのような手の届かない方として来られたのではないのです。

救い主は、人々の日々の生活のすぐ隣にあるような、貧しい、小さな飼い葉桶の中におられるのです。誰でもそこへ来て、膝をかがめて、上から中を覗き込んで、イエスさまと出会うことが出来るのです。

この方は確かに神の御子です。世の支配者を超えて、天と地のすべてを支配するお方です。

それなのに、イエスさまは御自分を低くして、小さく、貧しくなられて、わたしたちの罪の只中で、闇の中で、苦しみや悲しみの最も深いところで、出会って下さるのです。

そしてまさに、わたしたちの心も、飼葉桶のように、貧しく、小さく、救い主を受け入れるのにふさわしくないようなところす。しかし、そんなわたしたちの心の只中に、イエスさまは来て下さるのです。わたしたちの内に、喜んで宿って下さるのです。わたしたちの闇の中に、明るい光を灯して下さるのです。

救い主イエスさまは、このようにして、父なる神さまから、わたしたちに与えられました。神さまの方から、闇の中にいるわたしたちに、罪に捕らわれているわたしたちに、歩み寄って下さったのです。神の御子が、御自分が身を低くして、弱い肉体を取られて、幼子となって、わたしたちと出会うために、家畜小屋でお生まれになって下さったのです。

#### <イエスさまを受け入れる>

さあ、わたしたちは、どうすれば良いのでしょうか。目の前に来て下さり、その身を丸ごと差し出して下さっているイエスさまに、何をすれば良いのでしょうか。

わたしたちは、幼子イエスさまを、ただ受け入れるだけです。差し出された救い主を、落とさないように、大切に、両腕で、わたしのすべてで、受け入れれば良いのです。

神さまからのこれ以上ない大きなプレゼントを、神さまの愛情の塊であるイエスさまを、差し出された救いの恵みを、わたしたちはただ素直に、受け入れれば良いのです。

それを、神さまは望んでおられます。それを、神さまは喜んで下さいます。そうして、神さまは、イエスさまによって、いつまでもわたしたちと共にいて下さると約束して下さるのです。

この一年は、大きな不安や苦しみに覆われた一年でした。世界中が、同じ苦しみや不安を体験しました。しかしまたその陰で、それぞれの日々の中にも、胸の内に抱えたそれぞれの苦しみや悩み、それぞれの深い悲しみがあつたことと思います。

しかし、闇の中にこそ、罪の只中にこそ、イエスさまは来て下さいました。神の御子は、わたしたちのもっとも深い、もっとも暗いところにも来て下さり、共にいて下さるのです。このイエスさまが来て下さらないところなど、どこにもありません。わたしたちは、救いを求めれば、目を上げれば、必ず共にいて下さるイエスさまを見出すことが出来るのです。

神さまに無関心な人々に、隣人に無関心な人々に、暗闇で覆われているわたしたちすべての心に、イエスさまは来て下さいます。光を灯して下さいます。救いを与えて下さいます。

わたしたちは、こうして共にいて下さるイエスさまによってこそ、傷を癒され、心を励まされ、新しい力を与えられて、この苦難の世を歩いていくことが出来るのです。

そして、神さまの愛を受けてこそ、愛する者となることが出来るのです。

わたしたちは、来て下さったイエスさまを喜んで迎え入れましょう。神さまに与えられた恵みを全身で受け取りましょう。救い主は、わたしたちのためにお生まれになりました。クリスマス、おめでとうございます。

### 【お祈り】

天の父なる神さま

あなたは、わたしたちの救いのために、御子イエスさまをこの世に遣わして下さいました。

今日、そのことを覚えるクリスマスを、多くの兄弟姉妹と共に喜ぶことが出来ることを、心から感謝いたします。

あなたから頂いた大きな恵みを、イエスさまの救いを、素直に受け入れる者として下さい。

世の一人でも多くの者が、イエスさまに出会い、心の闇に光を照らされて、神さまの祝福のもとで歩む者となる事が出来ますよう、聖霊によって導いて下さい。

神さまに無関心な、また隣人に無関心なこの世を、わたしたちを、どうかお赦し下さい。わたしたちが神さまの計り知れない愛を受けたことを心にとめて、神さまを愛する者となり、そして、隣人と愛を分かち合う者となる事が出来るようにして下さい。

今日の日も、苦しみや悲しみ、困難の中にある人々、また孤独を覚えている人々を、神さまがどうか顧みて下さい。そのお一人お一人の心に、共にいて下さるイエスさまによる、平安と慰めが与えられますように。

クリスマスの恵みを心から感謝して、救い主イエスさまの御名によって祈ります。

アーメン